

本件は、米国東部標準時間において、3月16日(月)16:31
(日本時間3月17日5:31)に発表したリリースの抄訳版です

2026年3月18日
Hitachi Vantara LLC

日立ヴァンタラ、企業の責任あるエージェント型 AI 導入に向けて Hitachi iQ ポートフォリオを拡充

安全なオンプレミス環境での本番運用に向けて、AI プループリントやインフラ機能、インテリジェントなデータ統合を強化

株式会社日立製作所(以下、日立)のグループ会社である Hitachi Vantara LLC (以下、Hitachi Vantara)は、このたび、「Hitachi iQ」ポートフォリオの拡充を発表しました。具体的には、「Hitachi iQ Studio」における AI プループリントの拡充とマルチエージェント連携機能の強化、NVIDIA AI インフラオプションの拡充、オンプレミスや仮想化環境で稼働するエージェント型 AI 向けのより高度なデータ統合です。これらにより、Hitachi iQ は企業向けに最適化された包括的な AI ソリューションとして、お客さまが自社の環境で AI エージェントの開発や管理を行うことを可能にします。

Hitachi iQ の詳細については、こちらをご覧ください。

<https://www.hitachivantara.com/en-us/solutions/ai-analytics/hitachi-iq>

多くの組織が AI の試験的な導入から本格的な実用フェーズに移行する中、データの複雑化や AI 主権の確保、高度化するガバナンスやセキュリティ要件への対応といった課題に直面しています。最近の調査によると、米国やカナダにおいてデータ成熟度が高いと評価される企業は全体の 42%にとどまり、そのうち 84%が AI への投資対効果(ROI)を実感しています。一方、残りの 48%は、まだデータ基盤の整備が十分に進んでいない状況です。AI の本番環境への移行が進む中、強固なデータ運用と安全かつ適切に管理されたインフラを組み合わせることが、競合他社との重要な差別化要素となっています。Hitachi iQ ポートフォリオは、AI に最適化されたインフラと統合されたエージェント機能、責任ある企業向け AI の導入に必要な監視とコンプライアンス管理機能を組み合わせて提供することで、これらの課題の解決をめざしています。日立製作所 執行役副社長の阿部 淳は、「日立ヴァンタラは、長年培ってきた信頼性の高いエンジニアリングと、グローバルで磨かれたアジャイルなビジネスアプローチを融合させ、AI 時代の IT インフラ事業を力強く牽引しています。今回拡充された Hitachi iQ ポートフォリオは、お客さまが責任ある AI を自社の環境で安全に活用するための基盤であり、まさにそのリーダーシップを具現化するものです。これによりお客さまは、AI ガバナンスを維持しながら複雑なプロセスを自動化し、AI トランスフォーメーションを加速させることが可能になります。これは“真の One Hitachi”として、お客さまのイノベーションと持続的なグローバル成長を支える上で、重要な役割を担うものと確信しています。」と述べています。

また、Hitachi Vantara の Chief Product Officer である Octavian Tanase(オクタビアン・タナゼ)は、「AI の本番環境への移行が急速に進む一方で、多くの企業のデータ基盤の整備が追いついていない状況です。今回の Hitachi iQ ポートフォリオの拡充は、ソフトウェアの革新、高性能インフラ、インテリジェントなデータ統合と多岐にわたり、エージェント型 AI を試験的な導入段階から本番環境へ移行するお客さまに、より高い柔軟性と優れた運用性を提供します。」と述べています。

最新の AI ワークロードに向けたアクセラレーテッドコンピューティングオプションの拡充

Hitachi iQ は、企業が安定した性能で高信頼な AI インフラを導入および運用することを支援します。Hitachi Vantara のハイブリッドクラウドデータプラットフォーム「Hitachi Virtual Storage Platform One(VSP One)」を基盤とし、AI で社会インフラを革新する、日立のより広範な次世代ソリューション群である、「HMAX by Hitachi」にも活用されています。現在、Hitachi iQ は NVIDIA Blackwell GPU(空冷)、NVIDIA Blackwell Ultra GPU(空冷と液冷)および NVIDIA RTX PRO™ 6000 Blackwell Server Edition GPU を 4 基搭載した 2U の NVIDIA MGX ベースのシステムをサポートしています。新たに発表された NVIDIA RTX PRO™ 4500 Blackwell Server Edition GPU のサポートも計画中です。これらの GPU オプションにより、モデル開発やファインチューニング、推論やエージェント型アプリケーションなど、お客さまの AI ワークロードにより適した計算リソースを選択しながら、冷却、電力およびスペースの制約に対応する多様なモデルをサポートし、企業向けのセキュリティ、レジリエンスおよび本番運用への対応といった要件も満たします。

Hitachi iQ は、アクセラレーテッドコンピューティング、ネットワーキング、ストレージを統合した検証済みの構成で提供します。データを計算リソースの近くに配置する設計により、データ集約型 AI ワークロードによる利用率やその処理効率を高めま

Hitachi iQ Studio の新たな AI ブループリントとデータオーケストレーション

Hitachi iQ Studio は、組織が安全な企業内の環境で AI エージェントを設計、展開、管理することを可能にするソフトウェアです。NVIDIA AI Data Platform リファレンスデザインを基盤とし、拡充された AI ブループリントとマルチエージェント連携機能を新たに加えて、より高い可視性と運用性で AI のプロトタイプから本番への移行を支援します。

新しい AI ブループリントには、スーパーバイザーとワーカーモデルなど、定義済みのエージェントロールが追加されています。ワーカーエージェントはタスクを実行し、スーパーバイザーエージェントは複数の AI エージェントによるワークフローをその実行結果に基づいて調整します。これにより、組織は複雑なプロセスを自動化しつつ、可視性や効率性、ガバナンスを維持できます。

また、Hitachi iQ Studio は、エージェント型 AI システム向けに設計された大規模言語モデル NVIDIA Nemotron のサポートを拡充します。さらに、AI システムが過去からの履歴データのセットを文脈や時間の流れに沿って処理することを可能にするタイムマシン機能を追加します。この時間の流れを意識した処理により、AI の説明可能性を強化し、長期間にわたるデータパターンで意思決定を行う業界を支援します。

NVIDIA の Storage Technologies 担当バイスプレジデントである Jason Hardy(ジェイソン・ハーディ)氏は、「企業が AI を大規模に展開し続けていくためには、アクセラレーテッドコンピューティングとソフトウェアの一貫性、そして信頼できるデータアクセスを組み合わせることが必要不可欠です。企業向けに最適化されたフルスタックの AI インフラにより、企業が求める性能、ガバナンスおよび運用の一貫性を維持しながら、より幅広い分野での AI の成果創出を支援します。」と述べています。

Hammerspace との連携強化によりデータアクセスを簡素化、自動化、迅速化

Hitachi iQ は、Hammerspace 社との戦略的パートナーシップに基づき、Hitachi iQ Studio と Hammerspace の連携を強化し、AI エージェントが実行するワークフローによるデータアクセスを効率化します。AI システムが外部のデータソースに安全に接続するためのオープンスタンダードである Model Context Protocol(MCP)を活用し、Hitachi iQ Studio から Hammerspace が管理するデータに直接アクセスすることを可能にします。

これにより、お客さまは Hammerspace が管理するデータを安全に活用しながら Hitachi iQ Studio で AI エージェントを開発できます。また、各所に分散して格納されたデータを必要以上に移動することなく、その処理の自動化と活用を促

進みます。AI エージェントがどこで稼働していても、データは VSP One 内部で管理・保護され続けるため、その可用性と安定した処理性能を維持できます。

さらに、この連携強化はデータの可視性を向上し、インフラに複雑な変更を加えることなく分散して格納されたデータへのアクセスを容易にするため、AI エージェントがどこで稼働していても必要以上にデータを移動することなく利用できます。その結果、データオーケストレーションと AI エージェント管理の連携が強化され、VSP One Block がハイブリッドクラウドの柔軟性を維持しつつ安定した性能と高いデータ可用性の提供を支援します。

AI 向けストレージの高速化

Hitachi Vantara は、AI ネイティブなストレージソリューションを開発するために新たに発表された NVIDIA STX リファレンスアーキテクチャーのサポートも検討しています。このリファレンスアーキテクチャーは NVIDIA Vera Rubin, BlueField-4, Spectrum-X ネットワーキングおよび NVIDIA AI ソフトウェアを活用します。

Hitachi Vantara は、2026 年 3 月 16 日から 19 日まで米国カリフォルニア州サンノゼで開催中の NVIDIA GTC 2026 に Hitachi iQ および Hitachi iQ Studio を出展しています。これらの製品が、業界を問わずエージェント型 AI の開発をいかに容易かつ迅速に進めるかをご覧ください。GTC 2026 における One Hitachi の出展の詳細については、こちらをご覧ください。

<https://hitachidigital.com/hitachi-at-gtc-2026/>

Hitachi iQ Studio の詳細については、こちらをご覧ください。

<https://www.hitachivantara.com/en-us/solutions/ai-analytics/hitachi-iq-studio>

訳注：日本では、NVIDIA Blackwell GPU、NVIDIA Blackwell Ultra GPU および NVIDIA RTX PRO™ 6000 Blackwell Server Edition GPU 搭載モデルは販売開始済み。
Hitachi iQ Studio は 2026 年度販売開始を計画中。

関連リンク

- プレスリリース(英語): [Hitachi Vantara Unveils Hitachi iQ Studio to Simplify and Accelerate Agentic AI Development](#)
- プレスリリース: [日立ヴァンタラは、Hitachi iQ ポートフォリオを拡充し、多様化する AI 需要へ対応](#)

商標注記

記載の会社名、製品名などは、それぞれの会社の登録商標もしくは商標です。

Hitachi Vantara LLC について

Hitachi Vantara LLC は、データを活用してイノベーションを推進し、新たな変革をもたらします。日立製作所の 100%子会社である Hitachi Vantara LLC は、世界をリードするイノベーターに対し信頼性の高いデータ基盤を提供しています。データストレージ、インフラストラクチャー、クラウド管理、そしてデジタルの専門知識を通じて、お客さまが持続的なビジネス成長の基盤を構築できるようサポートします。詳しくは、Hitachi Vantara の[ウェブサイト](#)をご覧ください。

日立製作所について

日立は、IT、OT(制御・運用技術)、プロダクトを活用した社会イノベーション事業(SIB)を通じて、環境・幸福・経済成長が調和するハーモナイズドソサエティの実現に貢献します。デジタルシステム&サービス、エネルギー、モビリティ、コネクティブインダストリーズの4セクターに加え、新たな成長事業を創出する戦略SIBビジネスユニットの事業体制でグローバルに事業を展開し、Lumadaをコアとしてデータから価値を創出することで、お客さまと社会の課題を解決します。2024年度(2025年3月期)売上収益は9兆7,833億円、2025年3月末時点で連結子会社は618社、全世界で約28万人の従業員を擁しています。詳しくは、www.hitachi.co.jpをご覧ください。

お問い合わせ先

日立ヴァンタラ株式会社マーケティングコミュニケーション部

<https://www8.hitachi.co.jp/inquiry/hitachivantara/site-inq/form.jsp>

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
